

毎月無料でオンラインセミナー開催

転倒、誤えんの防止対策など、様々なテーマで開催しています。

無料オンラインセミナー

株式会社安全な介護

現場の取り組みから学ぶ

まったく新しい誤えん事故の防止対策

—怠ってはならない必須の対策とは何か？—

誤えん防止のための対策はたくさんありますが、誤えん事故が発生した時どのような対策を怠ると過失になるのでしょうか？誤えん死亡事故の判例を分析すると、怠ってはならない必須の対策が4つあることが判ります。また、判例からは誤えん発生時の救命対応も見直す必要があることが判ります。本セミナーでは、これらの対策を徹底した上で、様々な誤えん事故の要因を改善する方法をご紹介します、事故対応マニュアルの見直しも提案します。

セミナーの概要

1. 誤えん事故の基本知識
 2. 誤えん事故は裁判になりやすい
 - ・長野誤えん事故刑事訴訟の解説
 3. 誤えん事故の原因分析
 - ・どんな対策を怠ると過失になるのか？
 4. 誤えん事故の防止対策
 - ・車椅子上で食事に適した前かがみ姿勢をとる
 - ・小柄な利用者にはテーブルと椅子を合わせる
 - ・半身麻痺でも摂食機能の低下につながる
 - ・服薬などの影響で誤えんリスク高くなる
 - ・適切な食事介助の方法を徹底する
 - ・安全な食べ方ができない認知症の利用者への対応
- 《5》誤えん事故発生時の対処
- ・誤えん発生時の対処ミスの責任を問われるケース
 - ・座位のまま背部叩打法をするとどうなる
 - ・丸呑みで喉に詰まった場合の対応

● どのようなことが過失になるのか？

1. 誤えん防止に対する過失責任

①誤えん下嚥物を正しく評価していたか？
→家族から誤えん下嚥物について物陰に隠されていた
な誤えん下嚥物に誤りしを食後の確認をしていたか？
→ソフト食を提供すべきところ誤って硬質食を提供してしまっ
た
②認知機能の低下による誤えんリスクへの配慮をしていたか？
→早食いや詰め込みなどの習慣につながる食べ方があるのに配慮しなかつた
③適切な食事介助をしていたか？
→誤えんリスクを軽減するために利用者の口に食べ物を運んだら誤えんした

2. 誤えん発生時の対処ミスの責任

①誤えんリスクに応じた見守り体制をしていたか？
→リスクが高い利用者の見守りを怠り誤えん発生時の対応が遅れた
②誤えんの発生を迅速に発見したか？
→誤えん発生時に「正誤」の対応がなかった

● 誤えん発生後何分で救命重要請か？

事故対応マニュアルには何と書いてあるのか？

「誤えんを発見したらすぐにハイムリックや背部叩打法などの異物除去の処置を行い、効果がない場合は看護婦を呼んで吸引を施行する。看護婦は吸引を施行して効果がなければ救急車の要請を行う。」

このマニュアルは正しいか？

☑マニュアル通りに施行すると

2分	3分	3分	2分	3分	6分	6分
発見	発見	発見	発見	発見	発見	発見

呼称停止から16分後

無料オンラインセミナー開催要領

詳しいご案内はこちらから

<http://www.anzen-kaigo.com/index37.html>

